

極短期利用 イタリアンライグラス 2倍体
極早生品種 「さちあおば」

いもち病に強く暖地向き短期利用品種

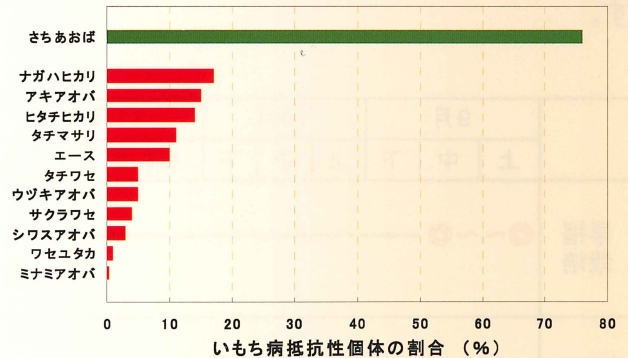
○主な特長

○我が国初のいもち病抵抗性品種です。同時に冠さび病にも強いため、これらの被害が懸念される暖地での早播栽培に最適です。

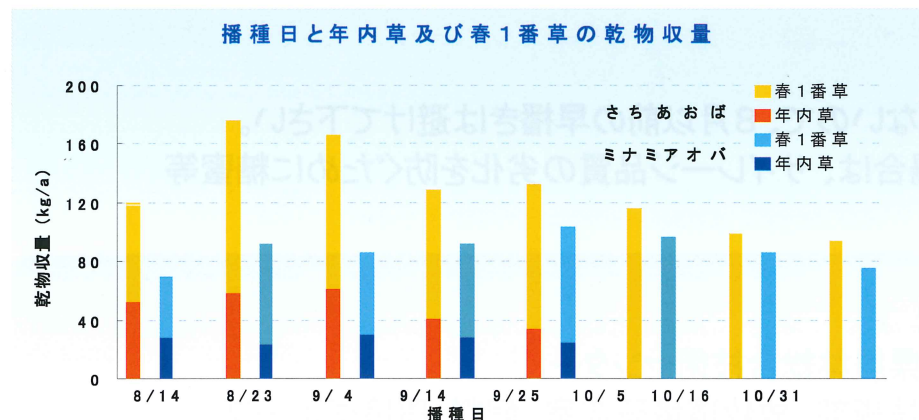


いもち病の被害 右：「さちあおば」、左：「ミナミアオバ」

人工接種によるいもち病抵抗性の品種間差異



○早播きすることで年内に出穂期に達します。年内草収穫後の再生力も優れるため、年内草と春1番草の合計乾物収量が多収です。



○栽培適地

- ・中国、四国、九州の暖地での採草利用。

○播種量 (10a)

- ・秋播き：3.0～4.0 kg/10a
- ・遅播きは5割増しとする。

「さちあおば」の

特長を生かした栽培利用法

- 中国、四国、九州の暖地の採草利用に適しています。
特に、いもち病の被害が生じやすい九州が最適地です。
- 出穂が早いので早期に多収が得られますが、再生力は早生品種より劣ることから、2回収穫体系が有利です。
- 9月上～中旬播きの早播栽培と10月上～下旬播きの標準播栽培が行えます。



早播栽培: 春1番草が4月までに出穂期刈りできるため、早期水稲や早播トウモロコシとの組み合わせに適します。

標準播栽培: 春2番草が5月までに出穂期刈りできるため、普通期水稲や夏作飼料作物との組み合わせに適します。

	9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月			4月			5月												
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中											
早播栽培	◎	◎	◎	—————									×	×	×	—————									×	×	×	×									
										年内草												春1番草															
標準播栽培							◎	◎	◎	◎	—————																		×	×	×	×	春1番草			春2番草	

◎播種、×刈取

○栽培上の留意点

- 苗立枯症には抵抗性が強くないので、8月以前の早播きは避けて下さい。
- 年内草で予乾が不十分な場合は、サイレージ品質の劣化を防ぐために糖蜜等の添加が有効です。

【育成機関】 問い合わせ先 :

山口県農林総合技術センター
畜産技術部 放牧環境研究室 飼料・環境グループ
TEL: 0837-52-0258 FAX: 0837-52-4832